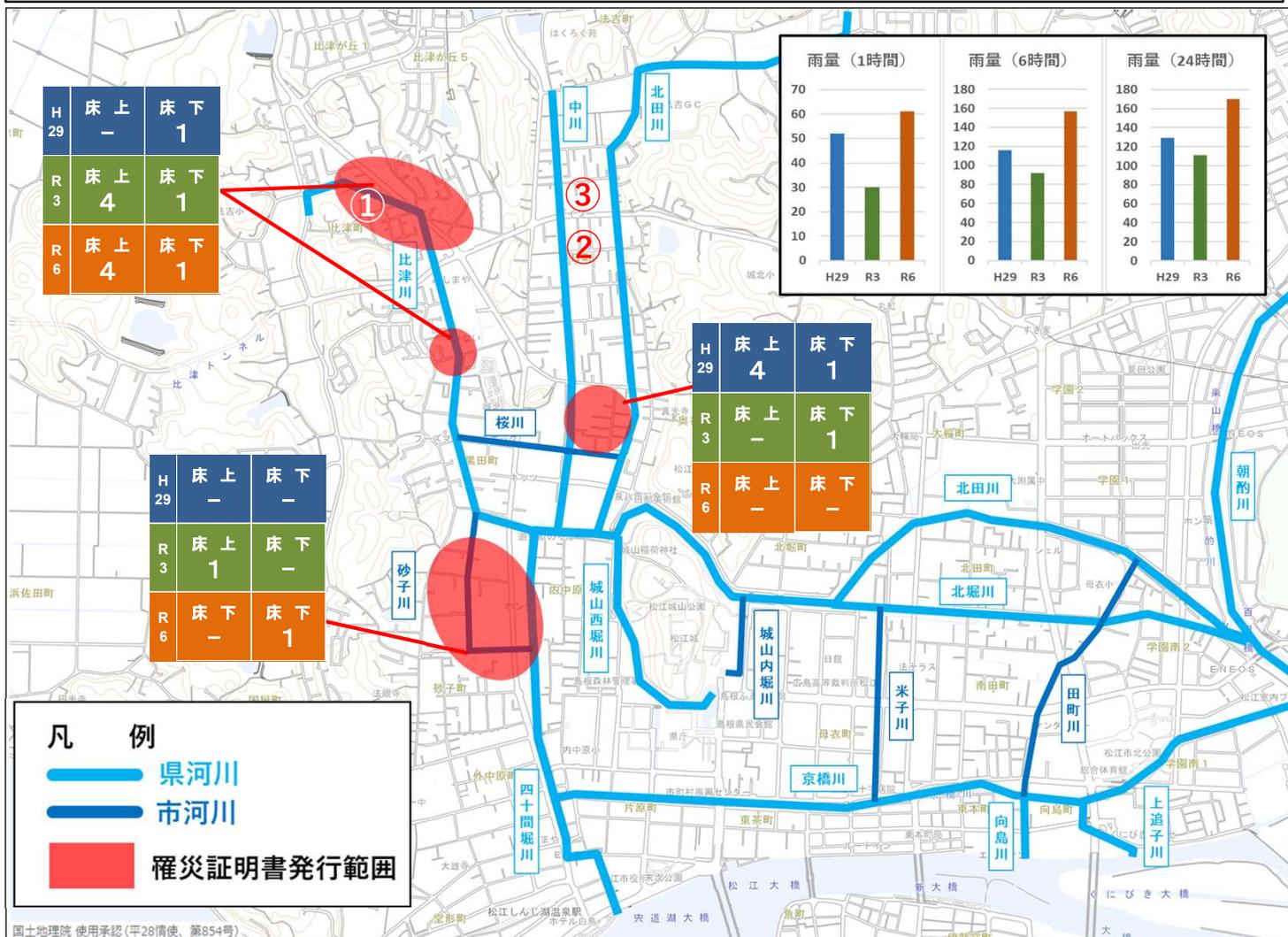


# 松江市街地 近年の大雨による被害状況

松江市街地（黒田町・春日町・比津町付近）では近年の大雨により  
床上浸水や床下浸水の被害が頻発

H29. 7. 25 雨量 52mm/h・116mm/6h・129mm/24h（北講武観測所）  
R3. 7. 12 雨量 30mm/h・92mm/6h・111mm/24h（北講武観測所）  
R6. 7. 9 雨量 61mm/h・157mm/6h・170mm/24h（北講武観測所）



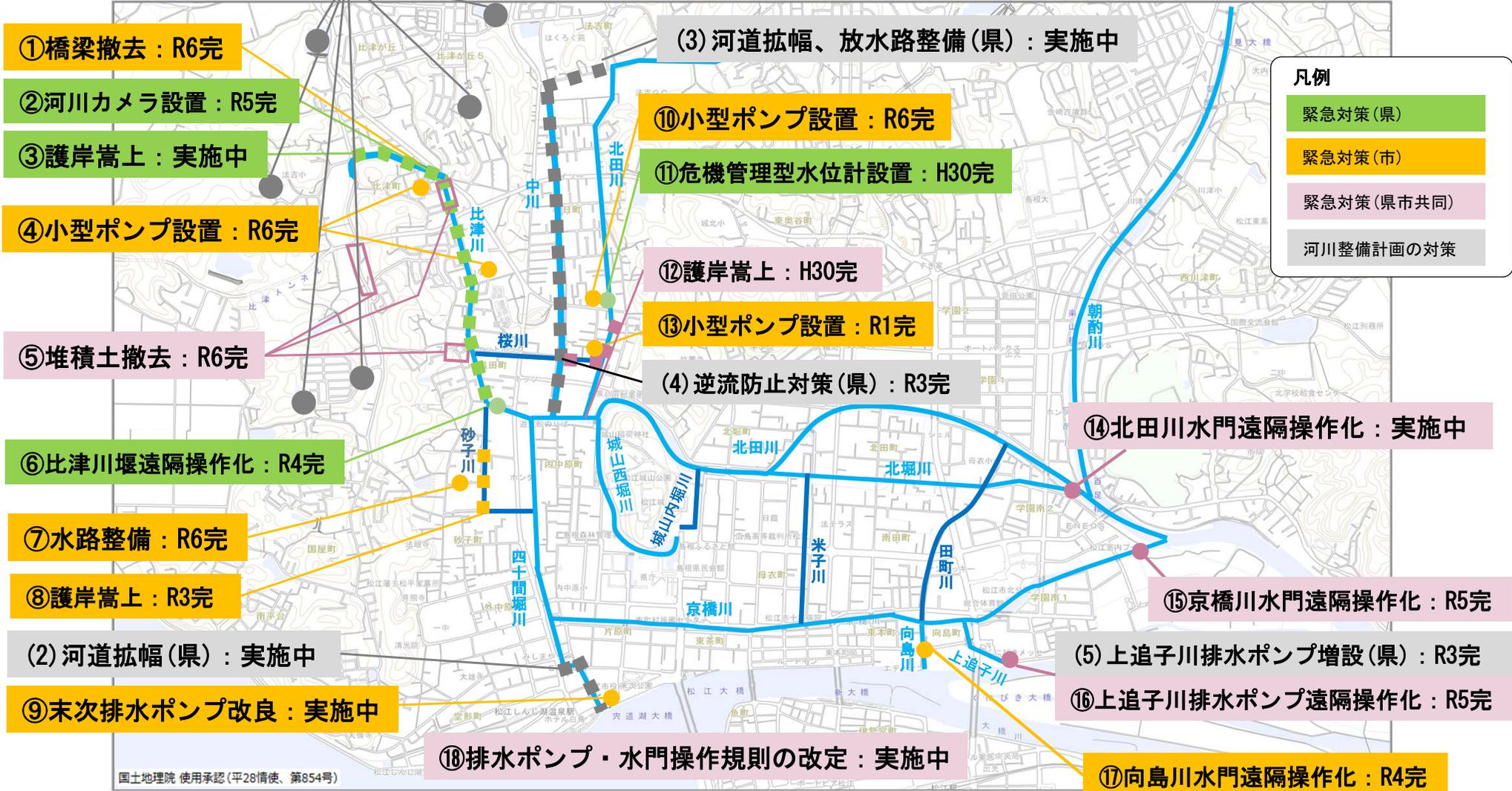
※床上・床下浸水戸数は、罹災証明書の発行状況を表示したものであり、浸水状況を表示したものではありません。

# 松江市街地 緊急浸水対策

松江市街地の浸水被害を軽減させることを目的に、「斐伊川水系 宍道湖東域河川整備計画」での対策に加え、緊急的に島根県と松江市で「護岸の嵩上げ」や「小型ポンプの設置」「水門などの遠隔操作化」などを実施（H29から実施している緊急対策に、R3やR6の大雨を受けて更なる対策を追加実施）

⑨・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・(5)の取組により事前放流することで松江堀川全体の貯留容量を確保

(1) 既存ため池等の改良(市)：設計中



## 川からあふれさせない取組

### 【③護岸嵩上（県）】

- ・護岸の嵩上げにより、川から水があふれる回数を軽減



施工前



施工後

## 川の様子を広く知らせる取組

### 【②河川カメラ設置（県）】

- ・河川カメラを設置し、河川の状況をインターネットでリアルタイムに公開

松江市街地では  
 ・比津川（3ヶ所）  
 ・京橋川（1カ所）  
 ・北田川（1カ所）の  
 計5カ所にカメラ設置済



河川カメラ設置状況



河川カメラ映像  
比津川(センチュリータウン)

## 溜まった水を吐き出す取組

### 【④小型ポンプ設置（市）】

- ・内水対策として、排水マンホールポンプの設置により排水能力を増加



排水ポンプ設置状況



集めた水をポンプで川に排水（参考例）

## ゲリラ豪雨に素早く対応するための取組

### 【⑭北田川水門遠隔操作化（県・市）】

- ・水門の操作を遠隔化し、操作員が現地に行くまでの時間を短縮

この他に松江市街地では  
 ・比津川堰  
 ・向島川水門  
 ・京橋川水門  
 ・上追子川排水ポンプで  
 遠隔操作化を実施済



操作画面イメージ



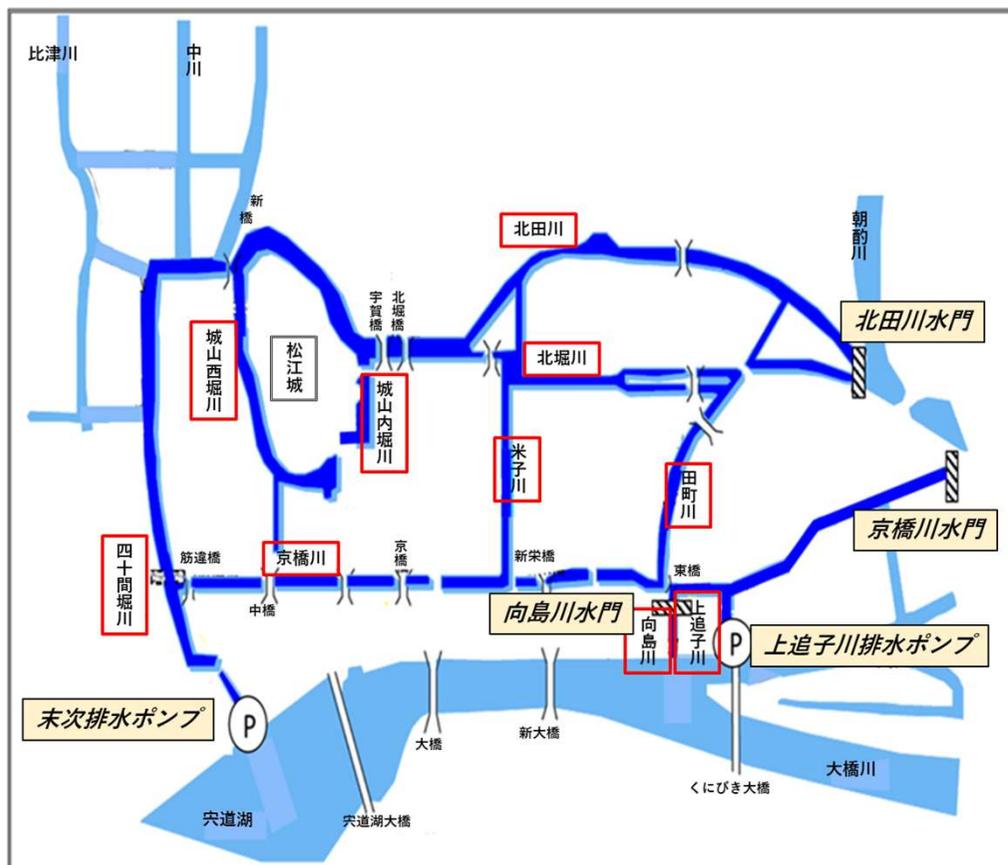
操作作業イメージ

# 松江堀川の事前放流による貯留容量の確保

島根県河川課  
松江市河川課

近年、多発する短時間での集中豪雨に対応するため、松江市街地への降雨が予測される際は、事前に排水ポンプや水門を操作し、松江堀川の水を宍道湖へ事前放流することで水位の低減を図り、松江堀川全体で約7.4万m<sup>3</sup>（25mプール約120杯分）の雨水が貯留できる容量を確保する。

## 【松江堀川平面図】



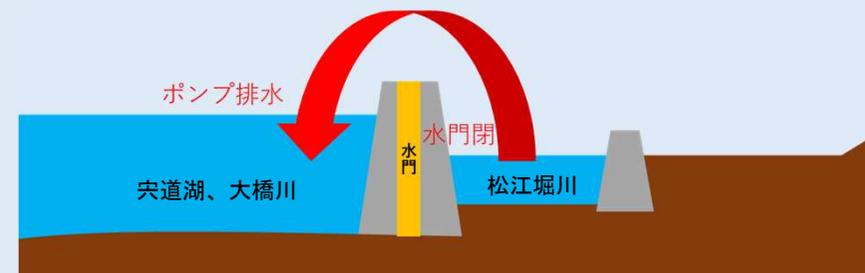
※松江堀川：赤枠の10河川の総称

## 【大雨が予想され、事前放流を行うことによる留意点】

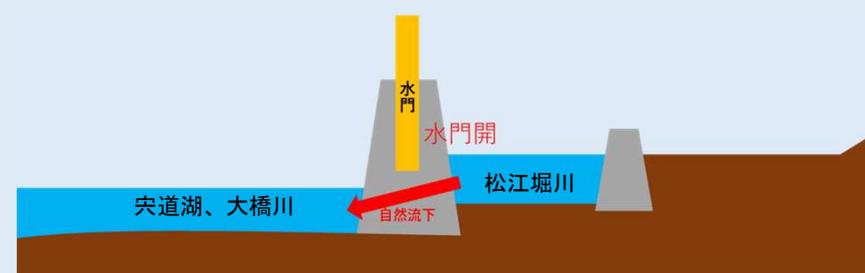
○遊覧船の安全な運航に支障をきたすため、大雨の恐れがなくなるまで、堀川遊覧船を運休

## 【事前放流時における水門、排水ポンプの操作について】

松江堀川より宍道湖（大橋川）の水位が高い場合⇒水門を閉めポンプ排水

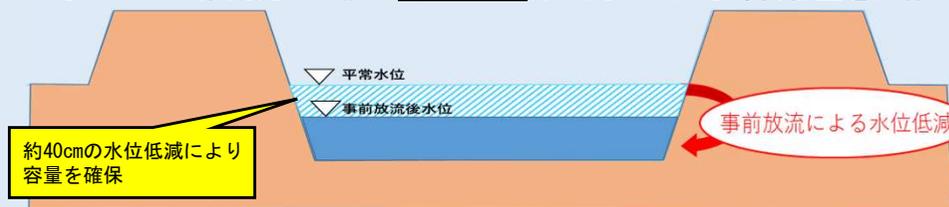


松江堀川より宍道湖（大橋川）の水位が低い場合⇒水門を開き自然に排水



## 【事前放流による水位低減効果】

松江堀川の水位を平常水位から事前放流により低減可能な水位まで排水することで、豪雨発生の前に約7.4万m<sup>3</sup>分の雨水が入る貯留容量を確保



※松江堀川の投影面積：18.5万m<sup>2</sup> 平常水位と事前放流後水位の水位差：0.4m  
⇒事前放流による貯留量：18.5万m<sup>2</sup>×0.4m＝約7.4万m<sup>3</sup>